

図書館運営のあり方について

1 目的

本市では、平成 26 年策定の「小田原市図書施設・機能等整備基本方針」に基づき施設・機能の整備を進め、令和 2 年 10 月には小田原駅東口図書館を開館し、中央図書館との 2 館体制でサービス提供を行っている。この状況を踏まえ、より良い図書館サービスに向けた蔵書構成や利用促進策、運営体制等のあり方を、今後の図書館運営における具体的な指針として取りまとめる。

2 内容（案）

- ・蔵書構成と維持方策
- ・図書館利用の活性化に向けた方向性
- ・中央図書館の運営体制
- ・地域資料の保存活用方針

3 基本的な考え方・観点（案）

（１） 外に開いた図書館運営

- ・多様な価値観やニーズを踏まえ、幅広い市民の図書館利用に応えるためには、市民の図書館活動に対する主体的な参画により、図書館が活性化することが必要と考える。
- ・そこで、図書館活動に市民が関わるができる仕組みを構築し、外に開いた図書館運営を行っていく。

（２） 必要な専門性の確保

- ・小田原駅東口図書館の指定管理制度導入にあたり、職員の司書資格比率を規定したところ、サービス提供に対して専門性を活かした工夫が見られ、導入効果が認められる。
- ・中央図書館においても、その業務内容や特性を踏まえた上で、必要な専門性の確保やそのための体制のあり方を整理する必要がある。

（３） 地域資料・既存資料の活用と蔵書の充実

- ・本市の地域資料は歴史的価値を持つものも多いが、広く市民に馴染み深いものにはなっていない。一般図書についても、歴史の長さゆえに、他市には無い図書を所蔵しているなどの特徴があるが、効果的に活用できているとは言い難い。
- ・これらの本市固有の図書・資料については積極的に活用を図ることで、蔵書構成の充実と併せて、本市図書館全体の価値を高めていく。

（４） 価値創造に向けた取組

- ・国が取りまとめた「これからの図書館像」（平成 18 年 3 月）では、「課題解決支援機能の充実」として行政支援、教育支援、ビジネス支援などの様々な課題解決に対する支援を、資料提供やレファレンスなどと合わせ行うことが挙げられている。
- ・地場産業支援やビジネス支援を行う公立図書館も増えており、これらを含め価値創造のための支援の観点を持った取組が重要になると考える。